

美術教育における題材の精選

——指導計画の在り方——

向坂 一弥・村井 良樹*・浜 恭子*・森田奈緒子*

Selection of Teaching Materials for Education Through Art

Kazuhiro KOHZAKA, Yoshiki MURAI, Kyoko HAMA and Naoko MORITA

はじめに

学校教育は、すべての国民にとって必要な基礎的・基本的な能力や態度の育成を旨とし、人間として望ましい生き方・在り方のできるようにすることが大目標である。したがって、いずれの教科も、知識や技能の習得に終始せず、人間形成に根ざした教育を求められている。即ち教科を通して、人間教育をする場なのである。

美術教育の在り方も「美術を通しての教育」であり、絵画や彫刻とかデザインや工芸といった美術の諸領域についての表現力を習得させるのが主目的ではない。「美術を通して」とは、教育的価値のある題材（テーマ）に対して、美術的な関わらせ方をする（学習）によって人間形成に関与させることを指している。

したがって、専門課程における「美術の教育」とは歴然とした相異がある。美術の専門家になるためには、高度な技術面や美的感覚の陶冶が要求されるが、一般教育の場合は技能面よりも学習を通して養われる心情や、対象との望ましい関わり方が優先される。そうすると、教育の方法としての題材の選定が基本的に異なってくる。表現力の育成を主眼とする美術の教育においては、デッサンを基礎として重視するが、人間の生き方・在り方を学ばせる視点からは教育的価値の低い題材となろう。では、人間教育の視点で題材を精選するためには、どのように考えるべきであろうか。

人間にとって何よりも大切なことは、自己をとり巻く環境との好ましい関わり方である。このことは、時代、民族、風習などの別なく言明できることで、人間に関してだけでなく、地球

上のすべての動・植物についても調和ある関係が求められてきた。この普遍的な関わり方の視点に立つと、人間は三つの環境とのふれあいが挙げられる。即ち、「自然」「人」「もの」に集約できる環境である。

人類は太古の昔から自然の中で暮し、自然から様々な恩恵を受けて生きてきた。自然とともに生きてきたともいえる人間は、過去だけではなく未来永劫に自然から離れられない関係にある。自然との共存共栄の関係を保ち続けることは、神から受けた生命を大切に考える考え方と重なり、人間として何よりも生きていく上の基本として押さえるべきことである。

また、人とのふれあい、接し方は、自己本意でなく、相手の心情や立場を思いやり、お互いがよくなるような関係を保つことが大切で、そこにも共存共栄の精神が根底に必要となろう。人間は、自分ひとりで生きていくことができなく、大勢の人の力によって支えられ、現在があるという自覚に基づき、心暖かな人と人との関わりに目を向けるべきである。

このように人間の生き方の視点を周囲に向けると、「もの」との関わり方の重要さが「自然」「人」とともに挙げられる。ここにおいて、三つの分野と人間との関わり方を視点別に調査し、その中から、美術の学習教材となりやすいものを抽出し、それらをもとに望ましい美術による教育の在り方を探ろうという意図のもとに調査研究をすることにした。表1～表7は生活の実態を整理し、まとめたもので、美術教育専攻の大学院生（村井良樹、浜 恭子、森田奈緒子）が分担研究をしたものである。

表1 人と自然との関わり

村井良樹

人 自然	生活	趣味	スポーツ	産 業			学 術
				1 次	2	3	
気 象	雨	雨宿り 傘 蓑 合羽 雷 落雷 洪水	雨音を楽しむ		雨乞い	日履 酸性雨	天気予報
	雪	雪掻き 雪がこい 雪止め 屋根雪下り 雪崩 雪吊り	雪合戦 雪祭り	スキー	雪の下に 野菜を埋める		
	風	風車 台風 嵐 風力発電		ウインドサーフィン バサシュート ハングライダー バラグライダー			
	太陽	日傘 日焼け 甲ら干し 太陽電池 発電	物干し 日干し		温室 促成栽培		黒点観測
	雲 夜	焚き火 街灯 星座	月見 肝試し		人工太陽		
小 さ な 自 然	水	洗濯 給水 歯磨き 水浴び 水まき 洗面 浄化 水力発電	ヨーヨー プール	水泳	灌漑		水族館
	氷	氷山	水河見学 南極 北極探険	スケート ボブスレー			
	石	石垣 石工 漬け物石 墓石 原子力発電	石投げ 石拾い				
	土	土葬 地震 地下資源	洞窟探険 泥遊び		鉄で耕す 農業	炭坑 鉱物坑	
	火	調理 料理 火力発電	火遊び 焚き火(焼芋)				
植 物	草	芝刈り 米 麦 草刈り 草餅 餅	山菜取り 茸取り	グラススキー	放牧 空中散布		
	花	花祭り 花見 菊花展 バラ祭り	押し花 花輪作り 園芸 生け花				
	竹	簾 竹がこい 竹の子取り 七夕	竹馬 竹鉄砲 弓 尺八 竹細工 竹ぶえ 竹蜻蛉				
	木	きこり 枝打ち 日曜大工 しばかり 薪割り 植樹	盆栽 紅葉狩		果樹栽培 植樹 炭焼き		
	地			競馬 乗馬 狩猟	飼育 牧場		
動 物	水	水族館	エーデルワイス 魚釣り	トローリング	捕鯨 養魚		
	空		果箱	鷹狩り	霞網		
	虫	蜂叩き 蚊取線香			養蚕		昆虫採集
大 き な 自 然	野	野点 森林浴 葡萄狩り 散歩 遠足	ピクニック 旅行 ハイキング	カヌー			
	山	山開き 栗拾い 蜜柑狩り	温泉 キャンプ	登山 ラリー			
	川	友禅流し 川渡し 水力発電	川下り	カヌー	養魚		
	海	防波堤 潮干狩り 津波 波力発電	クルージング 海水浴 船遊び	潜水 サーフィン ヨット スノーボード	海洋牧場		

※上記表中の.....部分は、図画工作及び美術の授業で課題として取り上げられるものです。

表2 人と人との関わり

浜 恭子

	生	活	経	味			
家	夫	結婚式 ○産床 ○産床 ○産床	銀婚式 結婚記念 等祝する 妊婦 結婚 お見送 お納め お返し お世話	新婚旅行 待ち合わせ	デート プロポーズ		
	妻	親孝行 お産 お産 お産	生会 お返し お返し お返し	お雛祭り お七五三 お三お	家族旅行 キャンプ		
	子	兄弟喧嘩 入学祝い	誕生日 プレゼント お祝い 相談事	兄弟の友人関係			
	親戚	親族会 冠婚葬祭	里帰り お中元 お歳暮	お参り お参り お参り	年賀はがき お年玉		
学	生徒	文化祭 部活動	集会 入学式 卒業式 式発表 式発表 式発表	修学旅行 旅行 旅行 旅行	宿泊 学習 習作		
	教師	家庭訪問 授業参観	保護者懇談会 職員会議 研究授業		懇親会 他校との交流		
	P T A	P T A 役員選出			懇親会		
	部活動	チームメイト 向上心	先導 団結 力強い ライバル 強化	意識 競争心 切磋琢磨		部活動の同窓会 文化活動発表会	
友	相談 歓迎 歓迎 歓迎	依頼する 頼む 頼む 頼む	手助け 手助け 手助け 手助け	誘う 誘う 誘う 誘う	頼りにする 頼りにする 頼りにする 頼りにする	暑中お見舞い 指きりげんまん	
地	近所	井戸堀 郵便物の	御借り 御借り 御借り	世間守 世間守 世間守	朝夕の子供 あひだの世話	さつ交流	ホームパーティ
	町内	町内会 町内会	草取り 役員選出	集火の用心 回覧板 見回り	ゴミ防 掃除訓練	津掃除	納涼祭 忘年会 新年会 祝賀会 （）○大会 （バーベキュー・ラジオ体操・ソフトボール・花火） 盆踊り
	市町村	農業協同組合	害虫駆除薬品散布				
	県・国	戸籍	福祉施設 国民健康保険				
社	上司部下	依頼 ○B分業 ○B分業	訪問 分散化 分散化	自己紹介 信頼関係	会社訪問 プロジェクト チーム	命令 服従	新年会 忘年会 冠婚葬祭 生涯教育
	同僚	競争	ライバル意識	協力 団結	仲間意識		カルチャークラブ（英会話・生け花・ゴルフ）
	得意先	接待	営業				
行政機関	憲法 税金	法律 のしくみ	警察 弁護士	選挙 刑務所	金融業界 裁判所 外交		
その他	伝達 コミュニケーション etc.)	電話 伝言 郵便物 メディア活動	電報				（T V・新聞・ラジオ・雑誌

表3-a 人ともとの関わり

森田 奈緒子

人 もの	ものとのふれあい			身近なもの			
	使う	利用する	学ぶ遊ぶ	生活	環境	生活の知恵 (今と昔)	
衣	学校	鉄・糊・セ ロテープ ホッチキス 針・ミシン 糸・ボンド ボンド 革箱・鉛筆 消しゴム 物差し・製 図道具	風呂敷・マント 紙袋・板面作り ゴミ袋でマン ト作り ガムテープを利用 して衣装作り 新聞紙で衣装作 り	板面作り・衣装作 り(運動会や学芸 会) 染色(ハンカチや 風呂敷) エプロン・バジャ マ作り	制服(夏服・冬服) 学生帽・密着 運動靴(内ばき・外 ばき)・短靴 肩かけカバン・ラン ドセル・学生カバン 運動服・エアフォーム ヘルメット・合羽 傘・長靴 給食着・マスク タンボール箱	下駄箱 傘立て ロッカー フック	安全ピン
	スポーツ	ストップウォ ッチ メジャー 笛	バネ・弾力性ス ポンジ 革製品・羽毛・ 羽		ユニフォーム・柔道 着・剣道着・スキー ウェア・水着・ウェ ットスーツ・まわし 防寒着・シューズ		
	道具	バット・ラ ケット・ボ ール・竹刀 ストック 自転車・自 動車 バット	包帯 テーピング		防具・ヘルメット・ グローブ リュックサック・杖 ゴーグル・マスク プロテクター	マット・跳 び箱・平均 台・鉄棒 ゴール・ネ ット	スニーカー シューズ メッシュ
	仕事	ミシン・機 織・製図道 具・コック ピエーター		コンピュータ アプリケーション イロコチ アプリケーション (ファッションショー)	仕事着・作業着 長靴・軍手・ジャズ 制服・消防士専用服 足袋 防放射線服 溶接マスク		ゴムつき手袋
	家庭	つめきり 櫛・ブラシ アイロン 霧吹き 洗濯機・洗 濯機・洗 濯竿 ミシン 網み棒 おしぼり具	端切れで作る 手ぬぐいで作る 日本手ぬぐいで 雑巾作り 着せかえ人形	化粧(おしろい・ 口紅)・香水 マニキュア 子供服作り・手提 げ作り	装飾品(ネックレス イヤリング・指輪 ブレスレット) 腕時計・眼鏡・サン グラス・ネクタイ・ ベルト・カバン・ハ ンカチ・ティッシュ 下着・靴下・洋服・ 着物・寝巻き・浴衣 財布	タンス 乾燥機	洗濯ばさみ たわし 霧吹き ホック
	レジャー	双眼鏡 カメラ		野山の草やふる で原始人の服を つくる	お風呂セット 麦わら帽子・着替え タオル・旅行カバン 雨具		

表3-b 人とものとの関わり

人 もの	ものとのふれあい			身近なもの		
	使う	利用する	学ぶ 遊ぶ	生活	環境	生活の知恵 (今と昔)
冠 婚 葬 祭	数珠			喪服・白装束 花嫁衣装・羽織・袴 晴れ着 はっぴ・ドレス・タキシ ード		
学 校	箸・食器 お盆・お正月 お焚き火 お盆	牛乳瓶	新聞・劇画・雑誌 栄養見取り図表	調味料・食品(お肉 ・野菜・ご飯) お鍋・お玉・ボウル	オーブリング ガラス瓶・ゴ ムミシロ 調味料入れ 花瓶	ストロー
仕 事	機械・コン ピューター バルコニー	加工食品(蒲鉾 ・缶詰) ドレッシング アルミホイール		冷凍車・運搬車 農耕具(鍬・鎌・鍬 ・トラクター・スプ リンクラー・ビニ ールハウス) 漁具(船・引き網 釣り道具)		樽
食 家 庭	箸・食器 お盆・お正月 お焚き火 お盆 お正月 お焚き火 お盆	鳥の子だまし 竹の華皿 トレーやアルミ ホイールで作る	料理雑誌 親子で料理作り ケーキ作り	コーンスター・コップ タオル・フライパン 鍋・泡立てき・ポッ ト・やかん・ジャー しゃもじ・洗剤・炭 酸ジュース 立て・カップ 灰皿 箸・鍋敷き・ホット プレート・お玉・計 量カップ 買い物籠・買い物袋 レシート	牛乳受け オーブリング ガラス瓶・ゴ ムミシロ お盆 泡立て 食器入れ 冷蔵庫・冷 凍庫 電子レンジ ガスコンロ	箆・爪楊枝 ラップ・ホイ ール 金網(七輪)
	飯盒・マッ チ・ライタ ー・固形燃 料・鉄板 串・お弁当	焚火(小枝・焼 き石)	釣り道具	買い物カゴ		缶づめ トレット食品 真空パック
	冠 婚 葬 祭	重箱 御膳 杯・とつく り		餅搗き(臼・杵)	お供え(鏡餅) おせち料理 精進料理 クリスマスケーキ	
学 校	掲示板・画 紙 図鑑 教科書 教員 用紙 黒板 消しゴム カラー ペン 鉛筆 消し ゴム 画 びろ	ダンボールを使 って作る ブロック作り 木工作品 お菓子の箱や 飾り 紙 を 使 っ て 作 る	図書館(本・辞 書) 新聞 補助 コンピュ ター CD CD 録音機 録音機 ピアノ・オルガ ン 分 割 機 ガスバーナー・試 験管・フラスコ	黒板・チョーク 丸 掃 除 具 保 健 室 給 食 室 職 員 室 校 長 室 美 術 室 音 楽 室 更 衣 室	校舎・教室 運動場・プ ール・トイ レ 花 壇 保健室・給 食 室 ロ ッ カ ー カー テン 水 飲 み 場 コート 土 俵 道 場 公 衆 電 話	ネズミ返し 鍵

表3-c 人ともとの関わり

人 もの	ものとのふれあい			身近なもの		
	使う	利用する	学ぶ 遊ぶ	生活	環境	生活の知恵 (今と昔)
住	自動販売機 公衆電話 トイレ 公園(ブランコ、滑り台) 公共交通	花時計・噴水	図書館・美術館 体育館・ホール 駅(駅マスター) 知府・特別区 地図	花壇・融雪装置 電柱・電音機 街灯・時計台 ガードレール・交通 標誌・カーブミラー 駐車場・自転車置き 場・ゴミ箱・ベンチ 消防車・母子車・パ トカー・バス・タク シー・飛行機・電車	道路・橋 歩道橋 交通標識	車いす洗車場 障害者専用トイレ コインロッカー
仕事	機械・コン ピューター 電気器具 ワープロ 通信機(ファックス)		フロッピー プリンター	オフィス・工場(切 断機・溶接装置・攪 拌機・焼却炉など) レッカー・アルソー 運搬車・鉄筋・鉄骨 木構・コンクリート トラクター・トラック	煙突 看板・ネオン サイン アドレッシング	超高層ビル
家庭	自販機 洗面台 キッチン 冷蔵庫 洗濯機 テレビ ビデオ ビデオデッキ ビデオカメラ ビデオカメラ ビデオカメラ	菓子・菓・塩漬 花飾 漬物鉢 井戸受け ボスト・野合箱 葉巻入れ お茶を作る	新聞紙・雑誌 オファン・本 カレンダ 時刻表 題紙・絵画	畳・テーブル・ソフ ア・ライト・電気 製品(テレビ・冷蔵 庫・炬燵・扇風機・ レンジ・暖房・掃除 機・スチロー・ラジカ ホ・塵取り・仏壇・ 神棚・ピアノ 車・自動二輪・自転 車 ベッド・布団 物干し竿・洗濯機 電話・コードレス電 話・ファックス カーテン 延長コード・石鹸 洗面器・洗面器	階段・廊下 床・天井 庭石・瓦 タンス・げ た箱・食器 棚・絨毯 本棚 壁・塀 ベランダ 網戸・窓 襖 傘立て 風呂・扇 シャワー	木や竹細工 水洗トイレ 電化製品のり モコン
レジャー		役作り 小唄作り テーブル椅子 作り	天気圖 方位磁石 キャン・ファイ-	寝袋・キャンピング カー・テント		
冠婚葬祭	お返し 鯛焼 線香			御輿・七夕・雛人形 五月人形・甲・仏壇 神棚・祭壇・さい銭 箱	墓	
情報	電話・ファ ックス カセット ワープロ ビデオ	ポスト 時刻表 案内(バレーン 依古のチラシ クイック)	テレビ・ラジオ 新聞・週刊誌 本	衛星アンテナ 電波アンテナ		手紙・葉書 ポスト
美術	筆・絵の具 画用紙	ライト・石膏 カメラ	絵画・彫刻作品 工芸作品	土曜館・カーナ コングレガ	美術館	

表3-d 人ともとの関わり

人 もの	ものとのふれあい			身近なもの		
	使う	利用する	学ぶ 遊ぶ	生活	環境	生活の知恵 (今と昔)
文化	鉛筆・消し ゴム・粘土 針金・旗	香見用おやわら (ワカ木)	写真 遺跡	ステンドグラス イゼル 水入れ		
音楽	楽器(ピア ノ・オルガ ンなど)	録音機 マイク	楽譜 水や氷で音を出す (グラスコーラス)	レコード・CD ステレオ・ラジオ	反響室 コンサートホール	
その他	乾電池 聴診器 (医療器具)	滑車・磁石 空き缶 ボール 炭・虫目かね	毎日日記 原稿用紙	パイプ 葉・葉箱・体温計 体重計・メジャー 日記帳・アルバム 母子手帳・通知 表・ファイル		

1 人と環境との関わり

1 自然との関わり

人と自然との関わりはどのようなものかを調査したのが表1である。調査に先立ち自然とは何かを明確にするために、その分類を試みた。山や海、森林や草原のような大きな自然から、そこに生きている様々な動・植物とか、水や石などのいわゆる自然を構成している小さな自然までを系列的にまとめた。それぞれについて人々の関わる場を生活、趣味、スポーツ、産業、学術面に分けて具体的に列挙した。

それらの中から美術教育の題材として扱えそうなものを検討した。表中にアミをかけて示したものが適応課題と考えられ、それらをどのような扱い方をするかを表4にまとめてみた。

表4では、前掲のアミかけをした1～56の課題につき、美術領域の指向性と対象学年の適応を検討したものである。そして各課題のとりくみ方や指導上の留意事項などを簡潔に示した。

(村井良樹)

2 人との関わり

人と人との関わりがどのような時、場所、状態でありうるかを調べたのが表2である。人間

関係は成長に伴い身近なところから次第に輪を広げていくものであるから、広がりレベルに応じた領域を設定し、日々の生活の場における人と人との関わりの中から、代表的なものを列挙した。その中から更に趣味的な分野の関わりを別枠にしてみた。これによって、美術の学習による関わり方が適切なものと、比較的なじまないものに分類できる。この調査の次の段階は前述の自然との関わりを表と同様に教材化に適した学年や扱い方に検討を加えることになる。

(浜 恭子)

3 ものとの関わり

人ともとの関わりを調査したのが表3である。「もの」とは、材料・用具もものであるがそれを使ってできたものもいう。非常に多くのものが身近な環境の中で存在するので集計欄が広がってしまったが、衣・食・住・情報・文化の領域に分類してみた。表中にアミかけの部分は、美術の教材として扱えるのではないかとと思われるものを示したものである。むろんその中には表現活動に適したものと鑑賞活動として好適なものがあるが、年間計画作成の段階で活用する資料となろう。(森田奈緒子)

表4-a 自然と人の関わりによる図工・美術の課題作成上の視点

番号	適応課題	美術領域の指向性					小学校			中学校			作成上の留意点	
		絵	彫	デ	工	造	低	中	高	1	2	3年		
1	傘			○	○				○	○				骨組みの製作(縫製)デザイン(図案)を工夫
2	長靴				○		△	○	○					足の生活を考え履き履かなくても色や柄を飾り
3	てるてる坊主	○	○				○	○						色や柄、色や柄の工夫
4	かまくら		○	○			○	○						顔の要素を持ち出す割合を工夫 2時間以内で完成
5	雪だるま		○				○	○						顔の要素を持ち出す割合を工夫 2時間以内で完成
6	鯉のぼり	○			○	○	○	○						色やデザインを工夫して顔を作り上げる。各他のものを参考に
7	吹き流し	○			○				○	○				風に引けてよく見えるデザインを工夫してある
8	風ぐるま	○	○	○	○		○	○						風車の構造にこだわらず、風を回すための形などを参考に
9	風鈴		○		○	○	○	○						音の鳴る素材を工夫し、その素材からデザインを考える
10	風輪		○	○					○	○				風を回すための形などを参考にデザインを工夫するよ
11	気球	○		○		○			○	○	○			気球に昇ることによって、膨らんだデザインを考える
12	風船				○		○	○						油紙を使い、折り合わせのワークブックははしりしき工夫
13	紙飛行機			○			○	○	○					翼の形や強度を気に、色や柄を考えてみる 飛ばなくても可
14	凧			○	○	○	○	○	○					世界の凧を参考に、素材を工夫し風おもしろさを
15	虹	○							○	○				虹をテーマにして、空想を膨らませる
16	雲の見立て	○					○	○						天候のよい見立て遊び、膨らんで雲を表現しスケッチをする 2時間
17	水車				○				○	○				水車の原理を認識させた上で、
18	噴水			○		○					○	○		水管の工夫によって出る水の勢い強さを気に割合を考えてみる
19	水鉄砲				○		○	○						素材に注目して、水が勢いよく出る工夫を、割合を工夫
20	氷彫刻		○						○	○				雪質と関係なく、彫刻の形を、彫りの形を参考に、自由な創作
21	石彫		○			○					○	○	○	石の硬さに合わせて、彫りの形を、彫りの形を参考に、自由な創作
22	石並べ		○				○	○						並べて石の質感や色、形を比べて彫りの形を、彫りの形を参考に、自由な創作
23	石の見立て		○				○	○						野外活動は、レクリエーションの一環として取り入れてみよう
24	陶芸				○	○			○	○	○			てびり、ひもづくり、紙づくりで、製法を考えずに自由につくってみよう。
25	砂遊び		○				○							野外活動は、レクリエーションの一環として取り入れながら、グループで作らせてみよう。
26	火事			○						○	○	○		ボスターの燃焼の仕組み、防火ボスター(原因-現象-結果)のアイデアを考えさせて、絵を描いてみよう。
27	植物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	植物を一つ取り上げるが、どんな植物を取り上げるか、出来るだけ多くの種類の植物を数種類に写生した上で、観察し取り入れてみよう
28	公園				○	○					○	○	○	写をするだけでなく、遊具の種類として、遊具の種類を考えた遊具の形を考えてみよう。
29	七夕	○	○				○	○						短冊だけでなく、他の飾りも、飾りの形(モチーフなど)を考えてみよう。
30	造園			○		○					○	○		写をするだけでなく、遊具の種類として、遊具の種類を考えた遊具の形を考えてみよう。
31	野菜	○	○	○	○						○	○		家庭での野菜や果物の作りかた、写をとり、デザインのモチーフにしたり、絵で遊んだりして色や柄を工夫してみよう。
32	草花遊び	○		○					○	○	○	○		写した草花を絵に描いたり、デザイン的なワークを考えたり、また、遊具の種類や遊具の種類を考えた遊具の形を考えてみよう。
33	花時計			○		○			○	○	○			各時計の仕組み、色や柄の形を参考に、時計の形をデザインしてみよう。

表4-b 自然と人の関わりによる図工・美術の課題作成上の視点

番号	適応課題	美術領域の指向性					小学校			中学校			作成上の留意点	
		絵	彫	デ	工	鑑	低	中	高	1	2	3年		
34	花輪作り			○			○	○						輪、軸をみて作る際、隙間に色や文様を作ってみよう。
35	竹馬				○			○	○					竹の葉いや、ナイフ、ノコギリ、ノミ等の道具の使い方に慣れさせよう。
36	竹鉄砲				○		○	○						素材には竹を使い、空気圧によるものやゴハンなどを模して鉄砲を作ってみよう。武器としての鉄砲の話しもしてみよう。
37	弓、竹細工				○			○	○	○				紙や鉛筆のデザインを参考に竹のこし細工を使って、道徳教育を作ってみよう。竹の性質をしっかりと覚えよう。
38	流木	○	○		○		○	○	○					夏休みの課題として舟や舟なぞへびじつとときに流木を切りつけてこさせ、授業でドライポイントやエッチングの課題として使おう。
39	木彫		○			○			○	○	○			木の性質や大きさを十分に考慮し、道具の使い方に気を付け、木の性質にあった道徳を作らせてみよう。
40	木登り	○	○					○	○					課題図面を利用して、木にお下がったり、木にまったりして見て感じ、木の質感を道徳に生かしてみよう。
41	木の見立て	○	○		○		○	○						流木や生きている木の色や質感を見立てて、絵画や彫刻の課題しよう。
42	動物彫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			彫り道具として彫り刀や色紙や鉛筆を写生しよう。後で色や質感に置き換えてみよう。
43	ベット	○	○	○			○	○	○					家畜に飼われている動物の顔を良く覚えて写生し、ベットに使うもののデザインの課題として使えてみよう。
44	水族館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			彫り道具として木彫刀や色紙や鉛筆を写生しよう。後で色や質感に置き換えてみよう。
45	貝	○			○		○	○						彫り道具や素材に加工したときに貝殻を拾ってきて、写生や道徳図面をしてみよう。
46	愛鳥週間			○	○				○	○	○			鳥籠をデザインしてたり、ボスコーを制作してしてみよう。
47	ハードウェア	○						○	○	○				鳥を飼育するだけでなく、鳥を飼って空想世界をしっかりと展開してみよう。写生ができればおもしろい。
48	巣箱				○			○	○	○				鳥籠のデザインをして、実際に木に加工するところまでやってみよう。
49	虫取り	○					○	○						昆虫採集があるところが少ないので、夏休みにほかの地域から採集した昆虫やお父さんから話を聞きかき出してあげよう。
50	蛭取	○	○				○	○	○					夏をとり取り、絵日記などに描くほか、虫取りの絵を描いてみよう。
51	写生	○					○	○	○	○	○			夏休みの課題として、身近にある自然を写生してみよう。
52	キャンプ	○		○			○	○	○	○				夏休みの思い出として、キャンプの風景を描いてみよう。
53	川遊び		○				○	○						夏休みの思い出として、川遊びのときに、道具や道具を使って道徳図面を作ってみよう。
54	筏遊び			○	○			○	○					課題図面を作っても、浮かべてみることは出来ない。課題を作った川や川を浮かべてみよう。
55	笹舟				○		○	○						舟の大きさや、色や質感をしっかりと覚えてみよう。
56	貝拾い				○				○	○	○			たくさん貝殻を拾ってきて、彫り道具や鉛筆を取り入れ道徳図面を作ってみよう。

II 美術による教育の年間指導計画

1. ふれあいと領域

美術による教育は、小学校においては図画工作科、中学校においては美術科の学習として実施されることになる。表5～7は、小、中学校の9年間の年間指導計画を浜、森田、村井の3名が分担して作成したものである。

表中のふれあいは「自然、人、もの」との関わりを題材源としていることを示している。また領域とは、表現や鑑賞の活動による関わり方を表している。ふれあい・領域はいずれも、その扱い方に極端な偏りがないように配慮することが必要である。

2 系統性について

美術教育は教科書をもとに順序よく知的能力を高めていく学習方式は採用せず、教師の独自の扱いで指導計画の立案をすることになっている。そのために絵や立体の表現などの題材を無秩序にら列した指導では児童・生徒の望ましい発達は期待できない。したがって、系統性についての検討が不可欠となってくる。

ここでいう系統性は、題材と題材との関連が有機的に組まれているかとか、習得した技法の活用面が考えられているかという視点である。美術教育の配当時間が少ないので、殊更に留意することが大切となろう。

表5 図工科年間指導計画

浜 恭子

月	週	小 一		小 二		小 三		
		題材	領域	題材	領域	題材	領域	
4	1	絵入 校庭に絵を描こう	絵	絵入 友達	絵	絵入 何かをしているお母さん	絵	
	2	全身で大きな絵を描く		クレヨンと水彩の併用		お父さん		
	3	絵入 友達の顔	絵			絵入 魔法の帽子	デザイン	
5	4	クレヨンで描く		絵入 動くおもちゃ	工 作	この帽子をかぶると何かが 起こる いったいなにか?		
	5	絵入 わたしのぼくの	デザイン	動きから様々な発想を導く 小刀や接着剤等の扱い方				
	6	"こいのぼり"をつくらう						
6	7	絵入 OO川の石を	造形遊び	絵入 河原遊び	造形遊び	絵入 木と遊ぼう	造形遊び	
	8	宝の石に変身させよう						
	9	日常生活における観察力					絵入 学校の動物	絵
	10	石に描く楽しさを味わう					ウサギ 鶏 ハムスター 対象の見方 観察力を養う 水彩道具の扱い方	
7	11	絵入 七夕飾り	デザイン	絵入 しりとり絵遊び	デザイン			
	12	ちぎった紙から連想し	絵	絵入 しりとりで絵を結ぶ絵遊び				
	13	絵を作り出す		絵入 魔法の風鈴				どんな魔法がかかるかな?
9	14	絵入 夏休みの思い出	絵	絵入 夏休みの思い出	絵	絵入 お話しの絵	絵	
	15	楽しかった思い出を渡す						
	16	絵入 雲の上で遊ぼう	デザイン	絵入 "虫の家"をつくらう	デザイン	絵入 "タイムマシン"にのって	デザイン	
10	17	身近で様々な材料をもとに 空想上のものを形にする	造形遊び	各自がもってきた虫さん のすみかをつくらう		想像の世界からの造形活動 自らの様々な思い願いを造 形活動を通して実現する		
	18							
	19							
11	20	絵入 運動会での楽しい思い出	絵	絵入 ぼくの夢わたしの夢	絵			
	21							
11	22	絵入 好きな動物を作ろう	立 案	絵入 どんな牛を描こうかな	絵	絵入 "クリスマスカード" をつくらう	デザイン	
	23							
	24	絵入 落ち葉で首飾り		デザイン				
12	25	身近な自然物から				絵入 学習発表会での思い出		
	26	絵入 私だけのとおきのおき	デザイン	絵入 お楽しみ会の招待状	デザイン			
	27	おどろくばこ						
1	28	絵入 冬休みの思い出	絵	絵入 モビール	デザイン	絵入 冬の遊び 雷遊び	造形遊び	
	29			釣り合い、動きのおもしろさ を利用した豊かな発想を導く				
	30	絵入 すごろく		デザイン		絵入 箱づくり		デザイン
2	31	切る、張る、描く		絵入 ハンコ遊び	デザイン	機能性と用途を考えて 従来の物の美しさにき づかせる 道具の使い方		
	32	絵入 おひなさまを作ろう						
	33		デザイン	絵入 お面をつくらう				工 作
3	34	絵入 ぼくたちわたしたちの	絵					
	35	先生						

表6 図工科年間指導計画

森田奈緒子

月	週	小 四			小 五			小 六		
		ふれあい	題 材	領域	ふれあい	題 材	領域	ふれあい	題 材	領域
4	1	人	友だちのかお (竹ペン、ボールペンで一筆がきのつもりでクロッキー)	絵	人	僕、わたしのかお (鏡をのぞいて上から下からななめからクロッキー)	絵	自然	春をみつけよう (植物をスケッチ)	絵
	2									
	3	自然	古城公園写生大会	絵	自然	古城公園写生大会	絵	自然	古城公園写生大会	絵
5	4	もの	やじろべえをつくろう (紙ねん土、はり金、竹)	工作	もの	宿泊(利賀少年自然の家へむけてしおりの表紙)	デザ イン	もの	宿泊(貝羽少年自然の家へむけてしおり制作)	デザ イン
	5									
	6	人	春の遠足・思い出いっぱい (竹ペン、ボールペンで描いた上に水彩で何度もかさねて)	絵	人	はじめての宿泊のおもいで (詩+水彩) or (日記+水彩)	絵	人	キャンプファイヤー・オリエンテーリングなど、友だちとの思い出を版画に	絵
6	7	人	運動会パネルづくり(共)	デザ イン	人	運動会パネルづくり(共)	デザ イン	人	運動会パネルづくり(共)	デザ イン
	8									
	9	もの	美術館探検 (高岡美術館・彫刻展)	鑑賞	もの	高岡万葉歴史博物館	鑑賞	もの	富山近代美術館	鑑賞
7	11	人	スポーツしている友だち (針金で芯づくり→紙ねん土) 形を大きくとらせる	立体	もの	植輪をつくろう (新聞の芯にねん土で素焼き)	立体	もの	自分だけのかばん (アッサンブラージュ) ダンボールのかばんの中に自分の大事なものを入れよう	工作
	12									
	13									
9	14	人	共同制作(クラス別) 僕たち・私たちの王国 ・おかしな国 ・おもちゃの国 ・動物の国 etc. (教室)	造形 遊び	総合	共同制作(クラス別) 僕たち・私たちのまち 箱庭づくり “鳥になってながめたら”	総合	総合	共同制作 僕たち・私たちにできること “世界と手をつなごう” 地図とオブジェ(教室)	総合
	15									
	16									
10	17	自然	魚津水族館	鑑賞	もの	高岡銅器見学	鑑賞	もの	富山民俗民芸村	鑑賞
	18									
	19									
11	20	もの	モビールづくり	工作	人	働く人たち ねん土で形をおおまかに→素焼	立体	もの	むかしの人たちの道具 木をつかって自分だけの便利道具をつくろう	工作
	21									
	22	自然	海の中ってどんなの?	絵	人	物語の絵 (昔話を版画で表現) ・木版あるいは紙版 ・リトグラフ ・ゴム版 年賀状を木版でつくろう	絵	総合	共同制作(学年) (卒業制作) “世界の友だち 僕らの友だち” タイル壁画	絵
12	23	人	落ち葉のかんざつ (細かいところまでよくみよう)	絵	人	クリスマス・カード (大好きな人にあげようね) 見開き型	デザ イン	総合	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
	24									
	25	もの	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	デザ イン	自然	“木の根をかこう” 想像させた土の中の世界をかかせる。(竹ペンやボールペンでその上にうすく着彩・春になったら出てくるものもかく)	絵	人	自分のかお 版画でつくる (卒業制作) 児童自らが世界を知るために新聞をとり入れたり、作文をかかせたりして、それらも作品の一部に利用する	絵
1	28	全	ねん土をこねこね (魔法つかいのおばあさんになって)	立体	もの	ぼく・私の魔法使いの杖 魔法使いの杖で世界の国をよくしよう (世界地図を使う)	デザ イン	人	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
	29									
	30	もの	ねん土をこねこね (魔法つかいのおばあさんになって)	立体	もの	ぼく・私の魔法使いの杖 魔法使いの杖で世界の国をよくしよう (世界地図を使う)	デザ イン	人	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
2	31	全	ねん土をこねこね (魔法つかいのおばあさんになって)	立体	もの	ぼく・私の魔法使いの杖 魔法使いの杖で世界の国をよくしよう (世界地図を使う)	デザ イン	人	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
	32									
	33	もの	ねん土をこねこね (魔法つかいのおばあさんになって)	立体	もの	ぼく・私の魔法使いの杖 魔法使いの杖で世界の国をよくしよう (世界地図を使う)	デザ イン	人	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
3	34	もの	ねん土をこねこね (魔法つかいのおばあさんになって)	立体	もの	ぼく・私の魔法使いの杖 魔法使いの杖で世界の国をよくしよう (世界地図を使う)	デザ イン	人	自分の住むまち (自分の住む家から学校まで、“鳥になってみてみよう”) 地図 鉛筆・水彩 色鉛筆・クレヨン	絵
	35									

表7 美術科年間指導計画

村井 良樹

月	週	中 一 (週2限)			中 二 (週2限)			中 三 (週1限)		
		題材	題材	領域	題材	題材	領域	題材	題材	領域
4	1	人 と 人	人物「クロッキー」 短時間のうちに しっかり対象を見る	絵 画	人 と 物	版画 ドライポイント 静物 ビン、布、本、植物 などを組み合わせた もの	絵 画	人 と 自 然	陶芸絵皿 絵付けのみであるが 初めから塗ってある釉 薬を削り形を表してい く方法	工 芸
	2									
	3									
5	4	人 と 人	彫塑「運動する人物」 部活動する人間を群像で 表現する [空間表現]	彫 塑	人 と 物	「抽象形を基にした 空間構成」 未来都市感覚の立体 感のある空間構成	デ ザ イ ン	人 と 自 然	抽象化分割した枠の 中に自然物(植物・動 物)をパターン化して 構成する	工 芸
	5									
	6									
6	7	人 と 物	デッサン 「ズックの素描」 しっかり対象を観察し て描く	絵 画	人 と 物	石彫 「幾何形態の構成」 球と立方体や三角錐 円すい等の幾何形態で 造形表現をする	彫 塑	人 と 自 然	卒業記念制作 「はんこの制作」 てん書体で自分の名前 のはんこを高麗石を使 って彫る	工 芸
	8									
	9									
7	10	も の	デザイン技法の練習	デ ザ イ ン	人 と 物	作家の生涯を中心とした 「西洋美術史」 ○ギリシャ ○ルネッサンス ○近代	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	11									
	12									
9	13	人 と 自 然	「自然物の構成」 各自の家庭から日ごろ使 っている野菜や果物を持 ってきて形を単純化して構成 する。	デ ザ イ ン	人 と 人	竹細工 ○照明器具 ○籠 生徒に選択させ、各自 でデザインさせて作る	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	14									
	15									
10	16	人 と 自 然	「植物をモチーフにした お盆」	工 芸	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	17									
	18									
11	19	も の	「日本美術史」	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	20									
	21									
12	22	人 と 自 然	「植物をモチーフにした お盆」	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	23									
	24									
1	25	も の	「日本美術史」	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	26									
	27									
2	28	も の	「日本美術史」	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	29									
	30									
3	31	も の	「日本美術史」	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	32									
	33									
3	34	も の	「日本美術史」	鑑 賞	人 と 物	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	工 芸	人 と 人	現代の美術 絵画 彫刻 デザイン 工芸	鑑 賞
	35									

まとめ

本研究は、人間として大切な生き方・在り方に気づき、豊かな心を持ち、たくましく生きることができ、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる人間を養う教育の源点に戻って美術による人間教育への関わり方を究明するためのものである。

望ましい人間像とは何かについて論じた研究は多いが、いかにしてそのように導くかという方法論となると抽象的な表現ばかりで、具体的な研究や実践に出会わない。したがって、人間教育のための具体的な足がかりは未開拓に近い状態といえる。

ここにおいて、本学の美術教育専攻の大学院生は共同研究による「自然と人」「人と人」「ものと人」との関わり方の調査をもとに、人間としていかに関わるのが望ましいかの視点による教育の在り方の究明をはかったのである。

この調査によって、これまで漠然としていた自分を取り巻く環境として「自然」といわれている分野が幅広く、それとの関わりとなると更に多様となるかを集約し、明確な資料となし得た。同様に「人」や「もの」に対しても「いっぱいある」という程度の認識や連想はできても、正確な把握はできていなかったものを表にまとめることによって具体的な教育の題材源として利用できるようにすることができた。

人間は、すべての事象に好ましい対応ができることが大切で、そうできるように教科、特別活動、道徳などの面から多角的・有機的な教育の関わりがなされているのである。自分を取り巻く万物・万象に対して、好ましい在り方がいつでもできるようにするためには、自然、人、ものとの関わりを題材源にし、そこから教科の特性に応じた指導がなされることである。

美術による教育の場合、今回の研究調査によって外的環境との関わりが把握でき、指導に好適な題材源を確認し得た。しかし、人間には外部との関わりほかに、自己の内面との関わりがある。即ち「ところ」とか「心象」などといわれる分野で、外部からは伺うことのできない部分である。美術には、想像や空想とか夢な

どにかかわる部分の表現や鑑賞の活動がある。本研究では、その分野の究明が欠落しているので、美術による教育の題材源をすべて網羅し得たとは言いがたい。この面の調査や分析が今後の課題となる。

研究の第二段階といえる題材源から題材を精選し、それをもとに年間指導計画を立案する過程においては、各自の分担範囲の中において、それなりの工夫がみられた。ふれあいをもとにした年間指導計画の試案は、今回は「自然・人・もの」に関わる三分野から題材を選び、「ところ」の分野を含めなかったため、完全な案とはならなかった。しかし、三分野からの題材の選び方と美術としての関わせ方は、示唆に富むものといえよう。

小学校1～3年の案は、活動の領域として鑑賞が示していないが、これはそれぞれの活動の中に発達に応じた見方・味わい方を指導するような扱いである。また一つの題材に関して配当時間が多いように感じられるのは、同一テーマをいくつかの表現方法で楽しみながら関わり、その中で、教師が人として大切なやさしさ、暖かさ、思いやりの心を植えつけるような話しかけ（指導）をすることが含まれている。

小学校4～6年の案は、地域の特性を生かして立案したもので、高岡市内の小学校の場合を想定し、学校行事との関連を考慮してある。この案は、題材と題材との系統性を重視し、技法の習得に関して、次の学習が発展題材となるように系統性を配慮してある。

中学校1～3年の案は、中学校現場の実情をふまえた立案で、特に3年生が週1時間の指導しかできないので、その中でいかに自然・人・ものとの関わりに気づかせるかの工夫をした例である。実際には「心」との関わりについて、色と形と材質を用いて表現する分野（絵画・彫塑）が加わるので、美術的方法によるテーマへの関わりで極端な偏りのない指導ができよう。

この研究によって、美術による教育の在り方の具体的な足がかりのための資料となれば幸いである。